

1. 対象施設

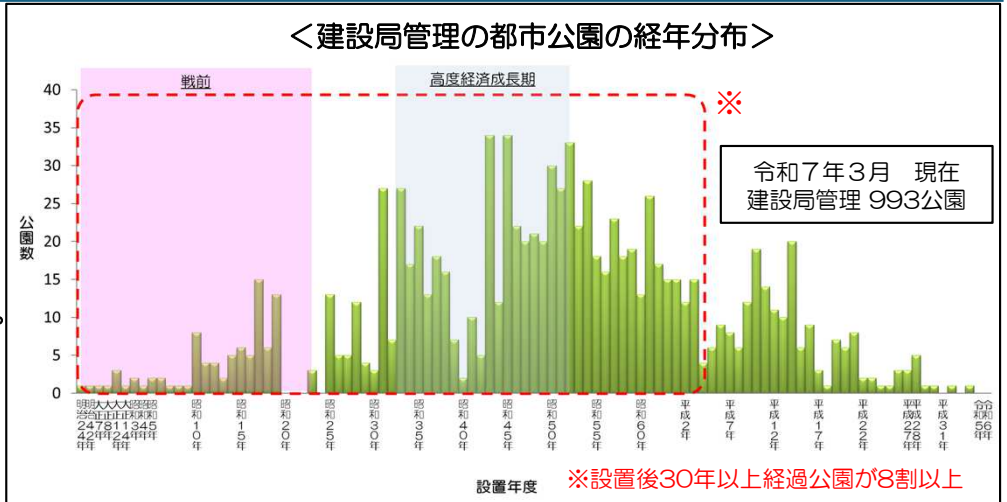
◆都市公園の現状

✓昭和40年以降、都市公園を積極的に整備してきました。

昭和39年4月 286公園・322ha
 ↓
 令和7年3月 993公園・889ha

✓現在、開設後30年以上経過した公園が全体の約8割を占めています。

✓今後、これらの施設が本格的な更新時期を迎えます。



◆公園施設の特性に応じた維持管理

✓都市公園には、多種多様な公園施設が設置されており、それぞれの施設の特性に応じた効果的な管理を行う必要があります。

✓公園施設の管理手法は、「予防保全（状態監視型・時間計画型）」による維持管理を基本とします。ただし、損傷により致命的な被害・影響を与えない施設については、「事後保全」による維持管理を行います。

＜主な施設の主要部材＞

分類	施設事例	主要部材
園路広場	園路、公園橋梁、土木構造物など	アスファルト、コンクリート、金属、木材、レガ など
修景施設	パーゴラ（日陰棚）・モコモトなど	コンクリート、金属、石材、木材、レガ など
休養施設	ベンチ・テーブルなど	コンクリート、金属、石材、木材など
遊戯施設	アスレチック・すべり台など	コンクリート、金属、ホリソリなど
管理施設	柵、公園灯、受変電設備、耐震性貯水槽など	コンクリート、金属など
便益施設	水飲台、時計など	コンクリート、金属、ホリソリなど
運動施設	防球柵、バックネットなど	コンクリート、金属、ホリソリなど

＜施設事例＞



（園路）



（パーゴラ）



（ベンチ）



（遊具）



（公園灯）

	予防保全		事後保全
	状態監視型	時間計画型	
適用の考え方	<ul style="list-style-type: none"> 損傷により市民生活に多大な影響を与える施設 劣化の予兆が測れるもの 長寿命化によりライフサイクルの最小化が図れるもの 	<ul style="list-style-type: none"> 損傷により市民生活に多大な影響を与える施設 劣化の予兆や状態の把握が難しいもの 	<ul style="list-style-type: none"> 損傷により致命的な被害・影響を与えない施設
管理方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な点検を行い施設の劣化等の状態を把握し、最適なタイミングで補修や修繕等を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的点検を行いつつ施設の安全性や信頼性を損なう前に計画的に更新 	<ul style="list-style-type: none"> 異常の兆候（機能低下・不具合等）を確認した段階で更新
施設分類	遊具・パーゴラ・防球柵・公園橋梁など		ベンチなどの簡易な施設

◆計画の対象となる公園施設

✓「大阪市公共施設マネジメント基本方針」に基づき、「インフラ施設」のうち「予防保全」による維持管理を行う公園施設を対象とします。

（※市設建築物、天王寺動物園は対象外としています）

＜主な公園施設の施設数＞（令和7年3月）

施設名	施設数
遊具	約5,800基
パーゴラ（日陰棚）	約1,200基
防球柵	約74km
公園橋梁	約56橋
公園灯	約16,000灯
受変電設備	13公園
トイレ設備	19公園

＜本計画の対象となる主な公園施設＞



本計画の対象となる公園施設

2. 維持について

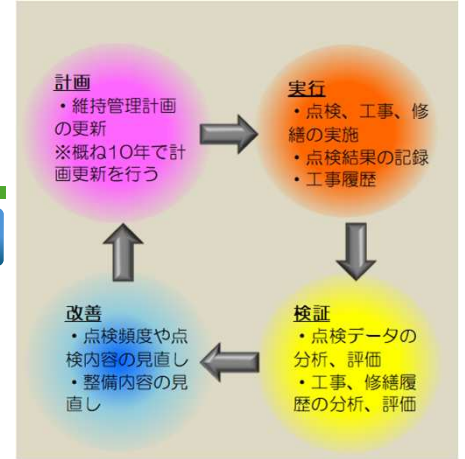
◆基本方針と実施方法

- 基本方針** 定期的な点検により状態を把握し、損傷が大きくなる前にこまめに補修する「予防保全」による維持管理の実施
- 実施方法** 公園全体の維持管理について計画、実行、検証、改善（PDCA）サイクルを確立

◆優先順位の考え方

- 基本的な考え方**
 - 優先順位1：安全確保
 - 優先順位2：点検
 - 優先順位3：効率的・効果的な維持管理
- 公園施設に対する基本的な優先順位**

利用頻度や代替え施設の有無、社会的ニーズ等を勘案した共用休止の影響や施設そのものの事故リスクの高さなど施設の「重要度」と施設の健全度（「健全度」）をひまえ、優先順位を設定します。



◆個別施設の状態等と対策内容

点検の実施

現状の把握

遊具の健全度調査結果

(令和5年度)

対策の実施

健全度	対応策	状況
A	経過観察	全体的に健全
B	順次対応	部分的に劣化が進行
C	必要に応じて使用禁止措置を行った上で、補修・更新などの適切な対策を講じる	全体的に劣化が進行
D		顕著な劣化

更新及び補修 実施時期

✓施設の補修・更新等を行う際は、これまで以上に施設の長寿命化を目指すとともに、整備費用の低減に努めるなど、素材・工法・技術等について検討し、ライフサイクルコストの縮減を図ります。

(補修)
施設の長寿命化の観点から部材などに応じ計画的に補修を行うとともに、安全性確保の観点から各種点検により破損等の危険箇所を早期に発見し、適時補修を行います。

(更新)
更新にあたっては、素材や工法について検討を行い、低価格で耐久性に優れた高品質な施設の更新を目指すとともに、施設の劣化という物理的な視点だけではなく、利用状況や市民ニーズ等の社会的要請などの視点も考慮しながら更新計画を検討していきます。

対策内容	対策時期											
	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16		
点検	[Blue bar across all years]											
<日常点検>3回/年 <定期点検>2回/年	[Blue bar across all years]											
<詳細点検> 防球柵等：概ね5年に1回 公園灯：定期点検の結果を受けて都度実施 公園設備：1年に1回			橋梁					橋梁				防球柵
部材交換など	[Blue bar across all years]											
修繕補修 塗装塗替えなど	[Blue bar across all years]											
切り継ぎなど	[Blue bar across all years]											
更新	[Blue bar across all years]											

計画期間：令和7年度～令和16年度

鋼製遊具における補修の事例



3. 対策費用（コスト縮減効果）

✓計画期間内における対策費用は約22億円年/円を想定しています。

✓予防保全による維持管理を適切に実施することで、従来型の事後保全による維持管理と比較して年間で約15%のコスト縮減効果を見込んでいます。

※対策費用約22億円/年の中には、事後保全による維持管理の対策費用の一部が含まれています。

(公園施設の最適化)
既存施設のリフレッシュや更新の際には、公園施設の魅力向上プランに基づき、施設数の最適化を図っていくとともに、各公園において、市民ニーズ等を踏まえた施設配置の見直しや機能分担についても検討していく。

